

取扱説明書

X3, X3R

MULTI GAUGE ø60

この度はPIVOT X3, X3Rをお買い上げ頂きありがとうございます。
お取り付け、ご使用前には必ず本説明書をお読み頂き、装着後も大切に保管してください。
なお、説明書の再発行は有償となります。

<p>警告 下記内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●換気の悪い場所で作業しない 排気ガス中毒や引火等で人体への危険があります。 ●製品は安全な場所へ確実に固定する 使用中に製品が外れブレーキなどに挟まると運転操作が行えず大変危険です。 ●コードの被ふくを傷付けない ショート・接触不良等による火災、通信不具合による電装部品・エンジン・車輛破損の危険があります。 ●運転中に操作をしない 運転中の製品操作や表示確認は事故の原因となりますので、安全に十分配慮してご使用ください。 ●配線はテープなどで収納する 配線処理や製品固定は運転の支障や接触不良とならない状態にしてください。 	<p>注意 下記内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷を負う可能性と製品その他に物質的損害が発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●DC12V車で使用する 本製品はDC12V車専用で、それ以外の電圧には装着できません。 ●装着直後は製品に強い力を加えない 両面テープによる製品固定は装着初期ははげやすくなっていますのでご注意ください。 ●薬品類は使用しない ゴミ・汚れが付着した場合はアルコール・シンナー・ベンジンなどの薬品類は使用せず、やわらかい布などで丁寧にふき取ってください。 ●高温となる場所や水のかかる場所へ装着しない 故障の原因となります。 ●ネジ・部品は元の状態に戻す ●眩しと感じる場所へ装着しない ●加工・分解および改造をしない
---	--

1. ECUが純正品と異なる場合やサブコンなどをご使用の場合、対応車でも適正表示しないため、対応不可です。
2. 他社の故障診断コネクタを利用する製品との併用はできません。
3. 他のPIVOT製品との併用については、こちらをご確認ください。
⇒ http://pivotjp.com/information/obd_conjunction.html

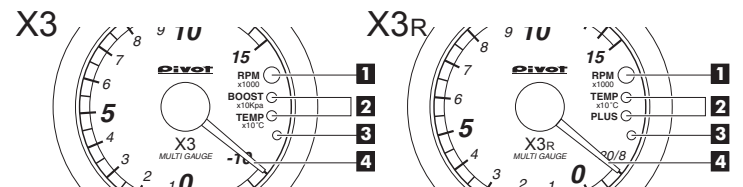
内容物をご確認ください



- 特長**
- 配管や面倒な配線作業不要
接続は故障診断コネクタに差し込むだけの簡単装着。
 - 見やすい複数表示
1台で3種類とシフトランプを表示します。
 - ステッピングドライブ
オーバーシュートやハンチングがなく高精度なステッピングモーター。
 - 簡単装着
極細ケーブルと両面テープで様々な場所へ簡単装着から埋込みまで可能。
 - 見やすいイルミデザイン
 - 車種別設定不要

各部の名称とはたらき

- シフトランプ**
設定値を超えると点灯しシフトポイントを知らせます。
- モードランプ**
使用中のモードのランプが点灯します。
- スイッチ**
モードの移行、各種設定に使用します。
- 針**
現在の数値や設定を指します。



各表示

<p>1. エンジン回転 表示範囲： 0~15000rpm</p> <p>3000rpm例</p>	<p>2. シフトランプ 設定範囲： 2000~10000rpm ※1 ダイハツ車について (右ページ中段参照)</p> <p>6000rpm例</p>	<p>3. 水温 表示範囲： -40℃~150℃</p> <p>95℃例</p>
--	---	---

4. 機種別表示

ターボ車
X3 ブースト (絶対圧表示)
(NA車は負圧のみの表示)
表示範囲：
-100~150Kpa
70Kpa例

NA車
-80Kpa例

X3R プラスモード
AT油温=トヨタ
表示範囲：-20~150℃
70℃例
バッテリー電圧=日産/ホンダ/三菱/スバル/スズキ/ダイハツ
表示範囲：8~18V
12V例

オープニングデモ → 表示 → 停止
オープニングデモの針の動きはマイナス方向に小刻みに複数回動き、その後最大値を指し、現在の表示項目に移行します。

1. 製品接続後、初回のみ車種自動判別し、キーONから表示まで最長約40秒かかり、以降はキーONから最長約15秒で表示します。
2. キーOFF後は最長約15秒後に電源停止します。

イルミ (文字板照明) イルミは動作中常時点灯します。

接続方法

準備 作業を始める前に付属の“対応車種表”で取付位置をご確認ください。

エンジン始動中にOBD2コネクタを車輛側コネクタに差し込みます。

- 1 キースイッチON (エンジン始動)**
START
- 2 カプラーコードを配線する**
故障診断コネクタへ差し込む

※一部の車種で、エンジン停止中に差し込みを行うと表示しないまたは誤表示する場合がありますので、エンジン始動中にコネクタ接続を行ってください。また、バッテリー端子を外した場合は、一度コネクタを抜き、差し込み直してください。

【参考】OBD2コネクタの取扱注意

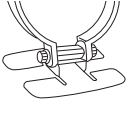


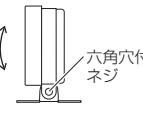

注意
抜き取り時にコードを持って引き抜くと断線の恐れがありますので絶対に行わないでください。

凸部が握れない場合
車種により、コネクタが奥まで入り凸部が握れない場合があります。

インシュロックの輪の部分を持って引き抜く。

■ 本体を取り付ける

車内の見やすい場所へ取り付けます。

A バンドホルダーを使用する場合	ダッシュボード上などに付属のバンドホルダーを使用し装着する場合	B パネルなどに埋め込む場合
 <p>強度のある場所へ両面テープを使用して固定します。(コラムカバー上、ダッシュ上等)</p>	 <p>1. バンドホルダーの取り付け ① ホルダーバンド部へメーターを差し込みます。 ② 差し込めない場合は、六角穴付ネジを多少ゆるめてバンドを広げて下さい。 ③ 六角穴付ネジを多少締め仮固定状態にします。</p>  <p>2. クルマへの取り付け ① 取付場所にピッタリ付くようにスタンドを曲げます。 ② 取付場所の油分や汚れ等を確実にキレイにします。 ③ 両面テープにて貼り付けます。 ※貼り直しは粘着力が低下するため行わないでください。</p>  <p>④ メーターの首振り角度を決め、六角穴付ネジを両側とも確実に締め込んで固定します。</p>	 <p>メーターの根本にクッションテープを巻き、直径60mmの穴に圧入状態で差し込みます。</p>

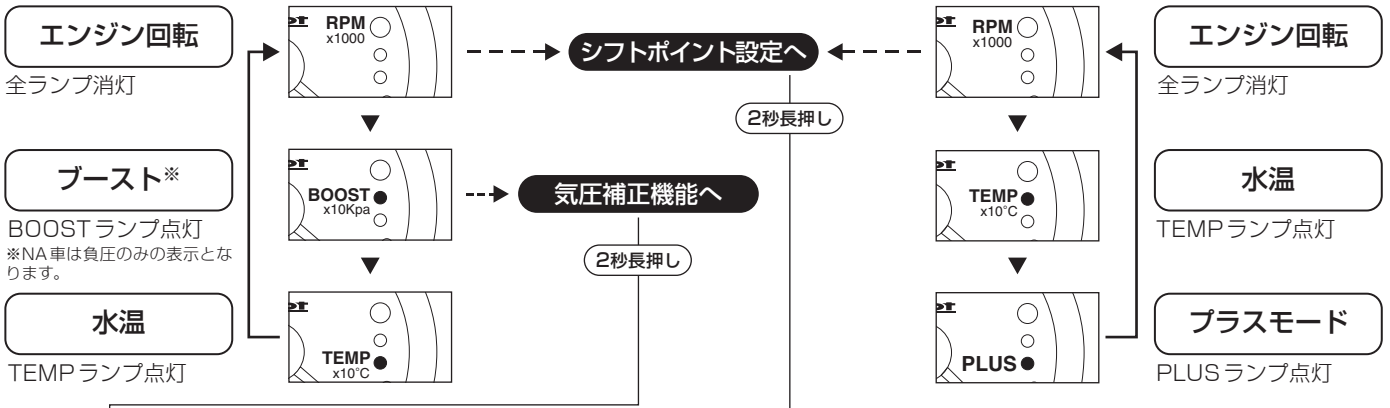
■ 基本的な操作方法

※本製品は取付後の車種別設定などは必要ありません。

X3

キースイッチ ON で、オープニング動作後、スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

X3R



シフトポイント設定

エンジン回転表示中にスイッチを2秒間長押しし、シフトポイント設定に移ります。

1 設定
・スイッチを押し、2000~10000rpmの範囲で500rpm単位の設定をします。

2 設定完了
・2秒以上スイッチ操作なしで設定完了し、エンジン回転表示に切り替わります。

※1 ダイハツ車について (OEM車含む)

シフトランプはエンジン回転表示以外でも点灯しますがダイハツ車の一部はクルマ側の信号上、ブースト表示中はシフトランプが点灯いたしません。

ブースト表示中は点灯しない	・ブーン M301S (K3-VE), M300S (1KR-FE) ・ムーヴ L152S (JB-DET) ・ミラジーノ L650/660S (EF-VE)
ブースト表示中でも点灯する	・コペン L880K (JB-DET) ・ミラ・ミラアヴィ L250/260S (EF-VE) ・タント L350/360S (EF-DET) ・ムーヴ L150/160S (EF-VE)

■ 気圧補正機能

下記の場合、補正は必要ありません。
① 理想的な絶対圧表示 (標高気圧差を含む) で良い。
② 標高が低い (200m以下) 場所で使用する場合。
X3のブースト表示は車両センサーの特性上、標高気圧差を含めた、より理想的な「絶対圧表示」をしますが、一般の標高気圧差を含まない相対圧メーター等とは標高差によって多少誤差が生じます。その誤差を補正する場合は、ご使用になる場所の標高を入力すればその差圧を自動補正します。

表示誤差例
標高500mで100Kpaの場合

誤差: X3 (絶対圧) 94.1Kpa, 機械式メーター (相対圧) 100Kpa

! ご使用地域の標高値は地図やインターネットでお調べください。
参考: <http://lab.uribou.net/ll2h/>

気圧補正方法
ブースト表示中にスイッチを2秒長押しし、気圧補正機能に移ります。

1 標高入力
・スイッチを押し、針を標高に応じた目盛りに合わせます。

2 補正完了
・2秒以上スイッチ操作なしで自動的に補正されます。

※標高値は四捨五入した百の単位を入力してください
補正例 標高630mの場合=目盛6 標高680mの場合=目盛7 標高1120mの場合=目盛11

標高による機械式メーター (相対圧) との表示差 (100Kpa時例) (ICAOの基準による)

標高 (m)	100	200	300	400	500	600	700	800
X3との表示誤差 (Kpa)	-1.2	-2.4	-3.6	-4.7	-5.9	-7.1	-8.2	-9.4
X3表示	98.8	97.6	96.4	95.3	94.1	92.9	91.8	90.6

絶対圧と相対圧とは

従来のブーストメーターは機械式が主流で構造的に標高気圧差を含まない「相対圧」として表示をしてきましたが、車両では、より最適なエンジン制御のため、標高気圧差を含む「絶対圧」方式が使用され、X3でも絶対圧での表示としています。

■ 故障と思われる前に

表示不可になっている一部車種でブーストなどの表示が出る場合がありますが、正常な数値ではありませんのでご注意ください。

症状	原因	確認・対策
キー ON で動作しない。	3Pカプラー、OBD2 コネクターの接続不良。 対応外の車種に取り付けている。	3Pカプラー、OBD2 コネクターの接続状態を確認する。 対応車種表をご確認ください。
誤表示する。	エンジン停止中に OBD2 コネクターを差し込んだ。 バッテリーを交換、またはマイナス端子を外した。	OBD2 コネクターを抜き、エンジン動作中にコネクターを差し込む。 OBD2 コネクターを抜き、エンジン動作中にコネクターを差し込む。
表示が純正や他のメーターとズれる。	本製品の各表示数値はクルマ側の ECU の情報で、一部車種で純正や他のメーターと誤差が生じる場合があります。	
ブースト表示が純正や他のメーターとズれる。	本製品のブースト計は絶対圧式で、相対圧式のメーターとは表示がズれる場合があります。(→基本的な操作方法「気圧補正機能」参照)	